

私は旨い物が大好きだ。グルメと云うのでは無い。何を喰っても旨いのである。鯛の頭からキャビア（トンブリかも？）迄、何でもカツカツ食べる。その道の専門家からは評価されない能力であるが、私自身は天授の能力と一人悦に入っている。

食べ方を観るとその人品が判ると云う。生まれは良いが育ちが一寸と思われる食べ方、生まれは兎も角育ちの良さを感じさせる食べ方、確かに大体は判る。私は両方とも最低な食べ方をする。行儀悪く、がさつである。箸やスプーンをゆっくり口に運んで行くという悠長な食べ方は出来ない。首が先に迎えに行く。口は既に御猪口になっている。私の妻は結構料理が上手い。偶に自宅で夕食を摂ると、卓一杯に作品を並べてくれる。私はあの鉢この皿と箸を進められない。整理屋みたい一品ずつ片付けていく流派である。そして必ず少しずつ残す。妻は気に入らないらしい。「お百姓さんの苦労を考えろ。感謝

# 産業春秋

藤田 國廣

題字 今井 敬氏

が足りない。」と亡くなったお袋か？と、思う様な事を云う。名前も顔も知らない何処かの村の誰かさんに感謝するのは難しいし未だしたことが無い。それよりその米や野菜を買う為に、日夜奮闘している私の苦労や感謝はどうなっているのかを知りたい。そして私はよく零す。食卓は食材の見本

る。一品、いや一種ずつしか食べられない人がいる。お焼などをすると、足しても足しても無くなるまで肉ばかりを食う。次に豆腐とかに移る。私は落ち着かなくなるし、何故最初がネギや糸コンで無いのかと残念に思う。「オレモ」と呼ばれる方がいる。鮪屋等で「鯛」「トロ」「ウニ」と頼んでいくと、必ず「あっ、俺も」「ウン俺も」とついて来る。自主性が無い訳ではない。「タコ」「ゲン」とネタを落としていくと、勝手に自分だけ上って行く。私が復活すると、また「俺も」が続く。この場合、殆ど私がご馳走になるので

きに限っているのが一寸釈然としなない。「ガハハ」と呼ばれる偉い方がいる。豪快で陽気なのだが、口いっぱいに詰めたまま一生懸命、大声で喋られる。正面の人は顔も服も食べ滓だらけになる。宴会の時等この方の前は自然と空席になっている。一度大汗物を口に入れたまま喋り、ご自分のヒザを汚してビクビクしておられた。他にも「トンデモナイ」「ジョラマー」「パッドマン」とか呼ばれている変食通の人達とよく御一緒にする。グルメであれグلمانであれ普通人であれ、旨い食事の秘訣は人と会話と空腹だと思う。いつも腹八分で止めておけば何でも美味しく戴ける。フランスの諺に「良き酒、口より入りて、良き言葉、口より出ずる」と有る。人生色々有るし、色々居られる。しかし、いい人達と楽しい会話と美味しい食事を一緒に出来て一日の暮を降ろせたら、他に何が必要であろうかと思う此の頃である。



## 変食通

市の様になる。汚なく見苦しいのは反省している。カレーうどん等食べたものなら、ネクタイとワイシャツは必ずお釈迦となる。

友人知人に色々な食べ癖の人がいる。冷飯に水を注いで掻き込む人がいる。観ていると背筋がヒヤリとす

（メタルドゥ社長）